

看護学専攻のカリキュラム評価による教育課程のあり方の検討 ーカリキュラム改正後の卒業年次学生へのアンケート調査からー

定方美恵子・成田 太一・西方 真弓・柏 美智
住吉 智子・坂井さゆり・清水 詩子・小林 恵子

Key words : 看護学教育, 看護学生, カリキュラム, 自己評価, 自記式質問紙調査

要旨 本研究の目的は、新潟大学医学部保健学科看護学専攻において平成24年度から実施している改訂カリキュラムの教育評価である。4年次生80人を対象に自記式質問紙調査を実施し、回答が得られた59人(73.8%)を分析対象とした。調査内容は、学習目標の達成状況やカリキュラム、保健師および助産師教育課程の科目に関する学生の評価である。

学習目標の到達度はほとんどの項目で70%以上が「できた」と回答し、カリキュラム全体の充実度も高い評価であった。また、保健師および助産師の実践内容に関する学習状況も全項目で80%以上が「学習できた」と回答した。一方で、看護実践できる能力の育成や、教養科目と専門科目のバランス、セメスター毎の学習量の配分は他の項目に比べ評価が低かった。

よりよいカリキュラムの運用と看護学教育の一層の充実のため、限られた時間数の中で、効果的な教育方法とカリキュラムの進捗について検討していく必要がある。

I 緒言

我が国の看護をめぐる環境は大きく変化を遂げ、急速な医療技術の進歩、チーム医療の推進、少子高齢社会と医療の再編に基づく地域包括システムの提言がなされ、看護職は患者の視点に立った質の高い看護の提供が求められている。

このような時代の要請を受け、平成19年に保健師助産師看護学校指定規則（以下指定規則）の改正¹⁾が行われ、新潟大学医学部保健学科看護学専攻（以下本専攻）でも平成21年大幅なカリキュラムの改定²⁾を行った。

その後、平成22年保健師助産師看護師法（以下、保助看法）の改正を受けて再び指定規則が改正された³⁾。本専攻においても、これらの改正や提言を受け、平成23年度保健師・助産師教育課程のカリキュラムを改訂⁴⁾した。

平成24年4月から新たなカリキュラムでの教育を開始し、平成28年3月にカリキュラム改正の完成年度の

卒業生を送り出した。

そこでカリキュラムの完成年度の4年次生が、卒業時点において、教育目標への到達度をどのように評価しているのか、カリキュラムへの満足度や順序性についての意見、さらに保健師と助産師教育課程の改定によりどのような能力が身についたと捉えているか等、情報収集し、総合的な評価に取り組む必要があると考え調査を実施したので報告する。併せて、保健師・助産師教育課程は現状では様々な教育課程がある中、本学では保健師教育課程を学部必修制、ならびに助産師教育課程を学部選択制とし看護の基礎教育として位置付けている点について学生の要望や意見を把握した。

II 目的

本研究の目的は、現行カリキュラムで教育を受けた卒業年次の学生が本学看護学専攻のカリキュラムに対してどのように評価しているのか、保健師・助産師教育課程の現状についてどのような要望や意見があるの

か、実態を把握・分析し、今後のカリキュラム改訂に活用するとともに、学士課程におけるよりよい看護のカリキュラムの運用と看護学教育に役立てることである。

Ⅲ看護学専攻のカリキュラムの特徴

本専攻の教育理念は「人間の尊厳，人間愛を基盤として全人的な保健・医療を目指すとともに，自立した看護専門職として社会の変化に対応し，看護を探究すること」，教育目的は「看護の対象の全人的理解と看護実践に必要な基礎的知識・技術を修得し，豊かな感性和倫理観，学際的視野を身につけ，保健医療福祉チームの一員としていずれの国，いずれの状況にあっても連携，協働できる看護専門職者を育成すること」を据えている。目的を細分した6つの教育目標をもとに看護教育のコア内容を精選した。

看護教育のコア内容を理論的かつ客観的に構造化し共有するために，専門科目の枠組みを支えるカリキュラム軸を垂直軸ならびに水平軸として吟味し，明確化した。

垂直軸は内容の構築に意味を与える概念，理念，知識といった内容領域を明確にするために定める軸であり，科目分類内に包含されるものとした。垂直軸には「専門性」「探求」「人間」「環境」「健康」「人間関係」「看護実践力」「チーム力」の8つをあげた。この8つの垂直軸をすべて教育内容に組み込み，科目を開設した。

水平軸は内容の構築すべてに関わる概念とし，新潟大学の理念である『自律と創生』を組み入れるとともに倫理的感性や垂直軸にあげた看護実践力の向上を重視し，「自律」「創生」「倫理」「実践力」の4つをあげた。

国家試験受験資格としては看護師と保健師は全員取得可能なカリキュラムとした。なお，保助看法改正で看護系大学では保健師教育が必修から外れ，保健師教育課程を必修あるいは全員が選択可能とする大学は26%となったが⁵⁾，本学では必修とした。また保健師の役割と専門性をより明確化する観点から，最終改訂で「地域看護学」という名称を「公衆衛生看護学」に改め，実習および講義科目の単位数を追加した。

助産師教育については保助看法改正⁶⁾を受け，引き続き学部を選択コースとして位置づけた。教育内容の充実をはかるため，講義科目単位数の増加をもって対応した。

Ⅳ方法

1. 研究デザイン 自記式質問紙調査法

2. 研究対象者

平成24年度に入学した学部生80人

3. データ収集期間 平成28年2月

4. データ収集方法

卒業年次の学生が集合した機会に，自記式質問紙を配布し，期日までに所定の回収箱へ投函するよう依頼した。調査票は無記名とし，対象者が回答に協力し，調査票を提出したことをもって，研究参加に同意したものとみなすことを説明した。

5. 調査内容

属性（入学年度，助産コース選択の有無），学習目標の達成状況（教育目標別の到達度12項目および自由記載），カリキュラムの評価（三島ら⁷⁾の調査項目を参考に作成した科目の開設時期と順序の評価14項目および自由記載），カリキュラムの充実度，保健師教育に関する科目の評価（開講時期・時間数の評価8項目，実践能力に関する学習状況5項目，科目履修〔学部必修〕に関する意見1項目），助産師教育に関する科目の評価（開講時期・時間数の評価6項目，実践能力に関する学習状況5項目，科目履修〔学部選択〕に関する意見1項目）。

保健師の実践能力に関する学習状況の評価は，平成22年に厚生労働省により提示⁸⁾された「保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度」（以下，保健師卒業時到達度）の大項目を用いた。助産師教育課程の評価は助産コース選択学生に記載を依頼し，実践能力に関する学習状況の評価は，新道ら⁹⁾の「統合カリキュラムにおける助産師教育の卒業時到達目標」を用いた。

6. 分析方法

属性および各質問項目については記述統計を用いてデータをまとめた。自由記述による回答は意味内容が類似したものをまとめた。

7. 倫理的配慮

本研究は厚生労働省・文部科学省の「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」および日本看護協会の「看護研究における倫理指針」に則って実施した。卒業年次の学生が集合する機会に説明を行うことをあらかじめメールで知らせ，説明は集会終了後で次の时限に授業予定がない時間に実施した。また，調査への協力は任意であり，協力の有無によって不利益を被ることはないこと，調査は無記名式であり途中中断も可

能であること、回答・集計・公表のいずれの段階においても個人が特定されることがないことを文書および口頭で説明した。また、入力したデータはパソコンに保存せず、専用のロック付USBに保存した。USBの保管は、鍵のかかるキャビネットに入れて保管し、漏えい、紛失などが起こらないように厳重に管理した。

V 結果

有効回答数（率）は59人（73.8%）であった。

1. 看護学専攻の教育目標と開設科目について

1) 学習目標の到達度

学習目標の到達度については、「非常にできた」「できた」が94.4%であった。

学習目標項目別の到達度について、「非常にできた」「できた」と回答した割合が一番多かった項目は、「看護の対象が身体的・精神的・社会的・スピリチュアルな存在である人間として理解する」、「対象の発達段階や健康状態、生活状態を関連させて全人的に捉える能力を身につける」、「看護専門職としての倫理観を身につける」の3項目であり、100%であった。一方、「看護実践できる能力を身につける」、「研究成果を看護実践・教育に生かすことができる基礎的能力を身につける」は、7割程度の到達度であった。また、最も到達度の割合が低かった項目は、「国際的視野及び異文化看護の視点から、国際社会において看護の機能や役割

を遂行できる素地を身につける」であり、57.7%であった（図1）。

自由記載では、看護の基礎的能力や技術について、「入学当初よりも看護職としての知識や考え方、態度が身についた」と前向きに評価をしていた反面、「実践的な能力を学ぶ機会が少ないので、演習時・実習時にもっと学べばよかった」と実践力に対する不十分さも感じていた。また、実習に関しては、「積極的に取り組むことができ、学んだことが多かった」、「不安や緊張はあるものの、ある程度の自信とやる気をもって実習に臨むことができた」など、学びや取り組みの姿勢に関する記載が多かった。

2) 科目の開設時期と順序

科目の開設時期と順序については、「非常に適切であった」「適切だった」と回答した割合が最も低かった項目は、「（1年次）教養科目と専門基礎科目と専門科目のバランス」であり、52.6%であった。自由記載では、「1年次にもう少し専門科目があってもよかった。2年次以降に詰め込まれている感じがする。」「1年次に看護について学ぶ時間がほとんどなくモチベーションが下がった。」という意見が散見された（図2）。

3) カリキュラム組み立ての充実度

カリキュラム組み立ての充実度については、「非常にそう思う」「そう思う」が89.7%、「あまりそう思わない」が10.3%であった。

自由記載では、カリキュラム全体では、「講義、演

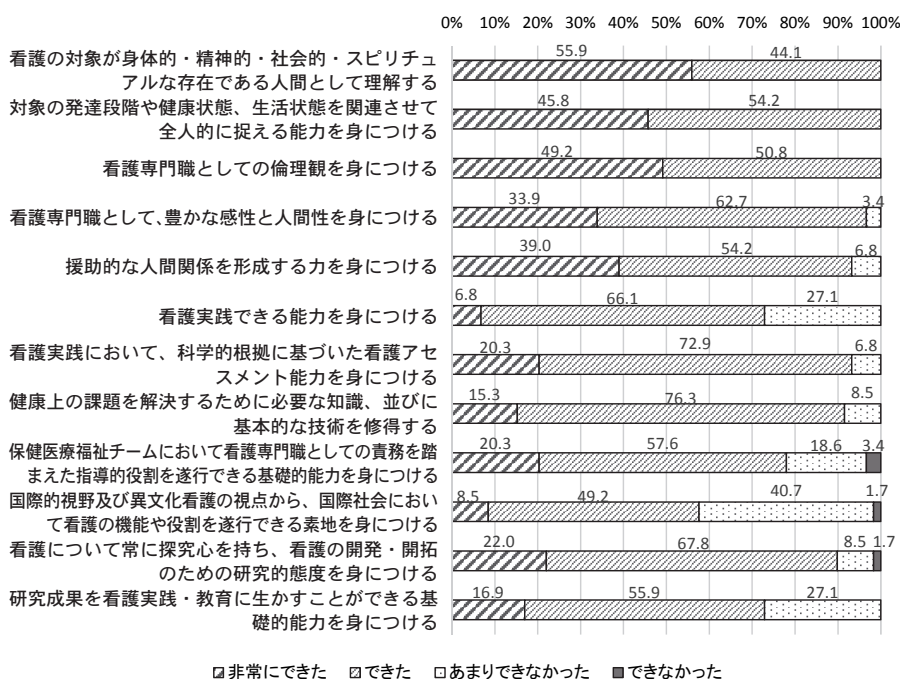


図1 項目別の学習目標の到達度

(n=59)

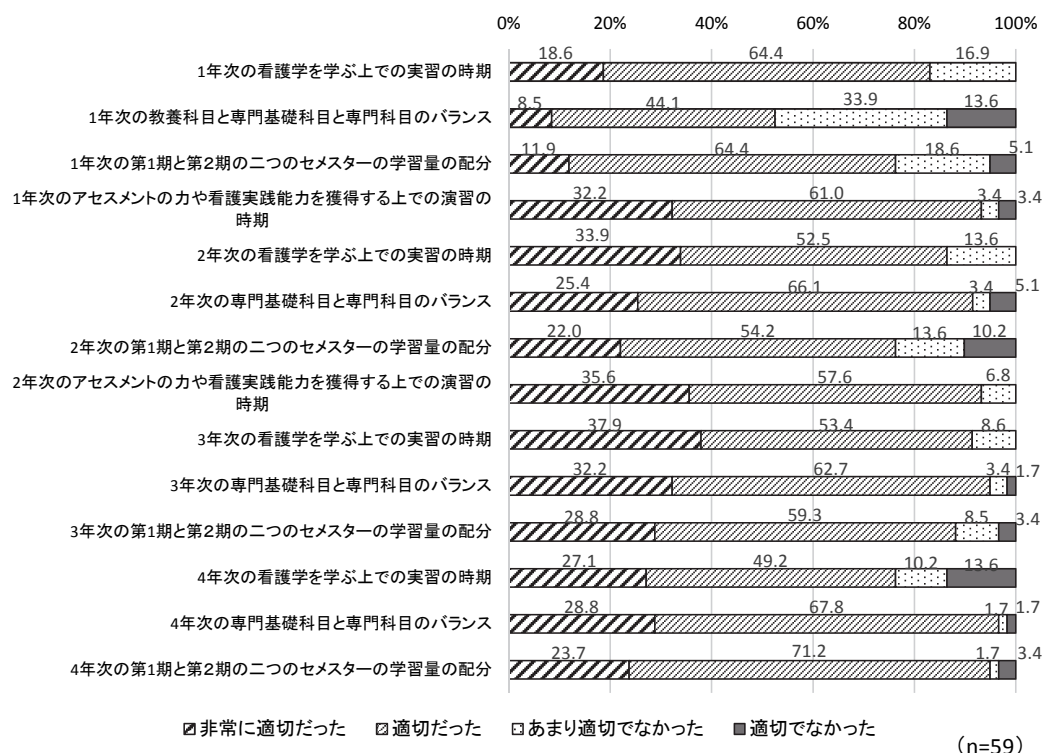


図2 年次毎の科目の開設時期と順序の評価

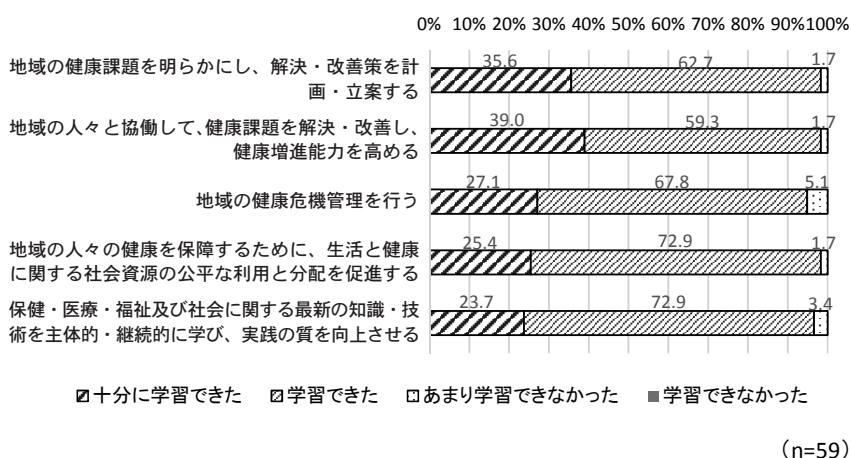


図3 保健師の実践能力に関する学習状況（卒業時到達度の大大項目）

習を踏まえて実習でさらに実践的な知識や技術を身につけることができよかった」、「保健師、助産師、看護師の3つの国家資格が取得できるカリキュラムだから良かった」など、カリキュラムの組み立てを評価する意見があった。一方、「科目数、演習が多すぎる時期とそうでない時期の差が大きかった」という意見もあった。

実習については、「公衆衛生看護学実習の時期がもう少し早いと進路決定の一助となる」、「不安や緊張はあるものの、自信とやる気をもって実習に臨むことが

できた」という意見があった。

2. 保健師教育に関する科目

保健師の実践能力に関する学習状況について、「十分に学習できた」「学習できた」と答えた者の割合はすべての項目で94%以上であった（図3）。

講義・演習科目の開講時期および時間数については「非常に適切だった」「適切だった」と答えた者の割合はいずれも98%以上であった（図4）。しかし、「公衆衛生看護学の実習科目」の開講時期において「非常に適切だった」「適切だった」と答えた者の割合が

看護学専攻のカリキュラム評価による教育課程のあり方の検討
ーカリキュラム改正後の卒業年次学生へのアンケート調査からー

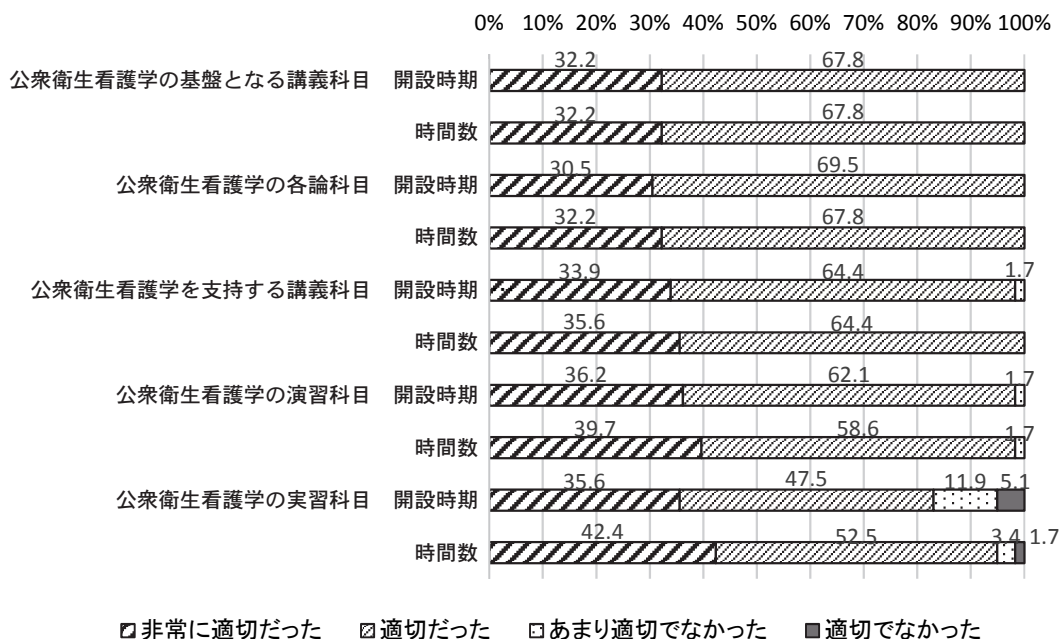


図4 公衆衛生看護学関連科目の開講時期・時間数の評価 (n=59)

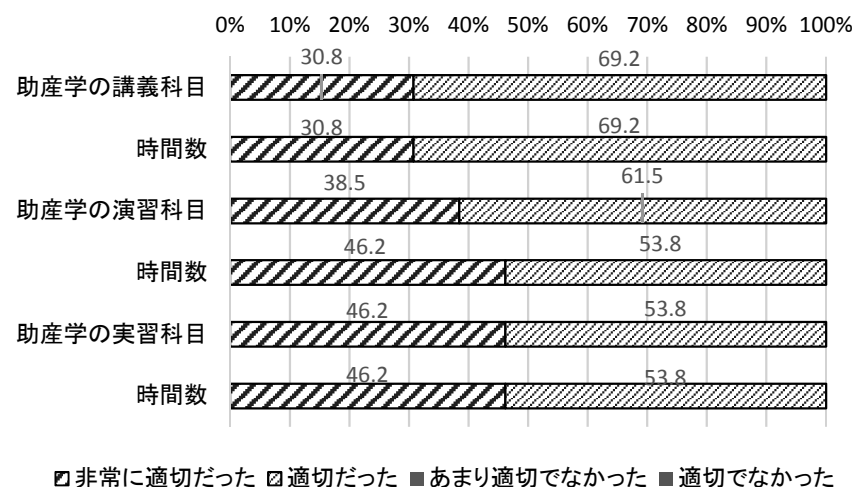


図5 助産学関連科目の開講時期・時間数の評価 (n=13)

83.1%と他の科目と比較して少なかった。その理由として、「実習後に保健師になりたいと思って遅かったので、実習がもっと早ければ良かった」などの意見があった。

保健師教育に関する科目履修を学部必修としていることについて、「学部必修でよい」56.9%、「学部選択制が望ましい」39.7%、「わからない」3.4%であった。その理由として、「実習で保健師の視点を学ぶことは、看護師としても継続的なケアを考えていくうえでは重要であるから」や「看護師としても保健師の知識や考

え方は大切だと思う」など必修を望む意見があった一方、「全く関心がなくモチベーションの低い学生の態度により、実習が円滑に進まなかった」などの意見もあった。

3. 助産師教育に関する科目

本学における助産師教育課程は選択制であり、13人が助産師教育課程を履修した。回収率は100.0%であった。

助産学の講義・演習・実習科目の開講時期、時間数について、「非常に適切だった」「適切だった」が

100.0%であった（図5）。

助産師の実践能力に関する学習状況（図6）は、①～④の4項目は、「十分に学習できた」「学習できた」が92.3%であった。⑤は、「十分に学習できた」「学習できた」が84.6%であった。自由記載では、「助産診断の内容をもっと充実させてほしかった」という意見があった。

助産師教育課程を学部選択制にしていることについては、「学部選択制で良い」が100%であった。自由記載では、「大学卒業時に助産師として臨床で働けることができる」、「4年間で資格取得の機会があるのは魅力がある」、「大学院などでしか取得できないとなると経済的負担となる」、「カリキュラム的には大変なこともあったが、看護や保健師の内容と関連させながら勉強できてよかった」という意見があった。

VI 考察

1. カリキュラム全体に対する学生の評価と課題

今回の調査により本学の学習目標の到達度およびカリキュラムの満足度は高いものと考えられる。学習目標では特に、「看護の対象理解」、「対象を全人的に捉える」、「看護専門職としての倫理観」の3項目が評価の高い項目であった。これらの項目は、平成19年度に本学卒業生を対象に行った調査¹⁰⁾において、学習内容の役立ち度の割合が高かった項目である、「発達・加齢の理解」、「全人的理解」と同様の結果となった。看護の対象を理解する能力については、これまでのカリキュラムによる教育の中で、学生側から達成感のある学びを得たと、引き続き評価されたと考える。

一方、学習目標の到達度において、「看護実践できる能力」、「研究成果を生かす基礎的能力」が「非常にできた」「できた」と回答した割合が他の項目に比べ低く、自由記載でも「実践力がついたか自信がない」という回答がみられた。平成19年度の調査¹⁰⁾においても医療処置に関する看護技術の習得度が低いことを指摘している。雀部ら¹¹⁾も対象への侵襲を伴う援助技術の習得は困難であることを報告しており、学士課程の限られた時間数の中で、看護実践能力の項目を焦点化すること、学生自身のキャリアプランによる学習の継続も必要ではないかと考える。

また、「国際的視野及び異文化看護の視点」の到達度は6割に満たなかった。国際社会に目を向けた看護教育に対する取り組みが重要視されている中、本学の国際看護教育科目である、「国際看護学」および「国際看護学演習」は、いずれも選択科目となっている。学生全員が国際看護教育科目を履修するとは限らない現在の単位取得のあり方が到達度に影響したとも考えられる。基礎看護教育における国際看護学の現状について中越ら¹²⁾は教育内容や教育方法については差があるとしており、今後は他大学における国際看護教育の現状を参考にし、より良い教育方法等の検討を行う必要があると考える。

科目の開設時期と順序については、1年次の教養科目と専門基礎科目と専門科目のバランスの適切さに関する評価が最も低く、自由記載においても1年次に専門科目を学びたいとする要望が多かったことから、1年次の教養科目と専門科目のバランスについて、大学全体の教育方針も踏まえ検討を重ねていく必要がある。

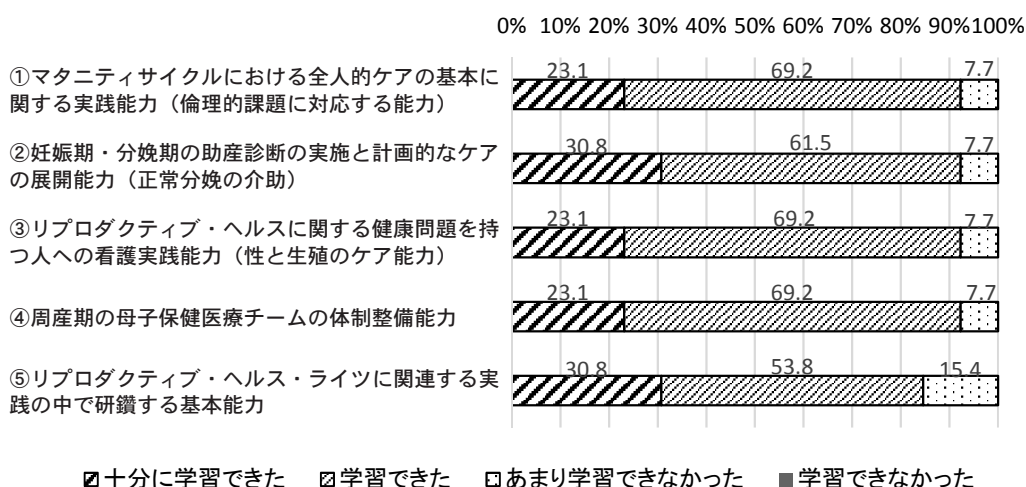


図6 助産師の実践能力に関する学習状況

(n=13)

2. 保健師教育課程に関する学生の評価と教育上の課題

カリキュラム改正後の保健師卒業時到達度の大大項目ごとに学習内容の評価をみると、全ての項目において、「概ね学習できた」と認識していると考えられる。「十分に学習できた」という割合が高かった項目は「地域の健康問題を明らかにし、解決・改善策を計画・立案する」「地域の人々と協働して、健康問題を解決・改善し、健康増進能力を高める」であった。これらは保健師として最も基本的な実践能力でもあることから、講義・演習・実習を連動させ、能力の獲得・定着を重点的に図っている項目である。一方、他の3項目については、演習や実習で体験することが難しく、4年次後期の公衆衛生看護管理論で強化している項目でもあるが、引き続き教育内容・方法の改善について検討していく必要がある。一方で、学生の自己評価はあくまでも学生の主観であり、体験状況や実習指導者・教員の評価等、複合的な評価が必要であるとも言われている⁶⁾。そのため、学生、教員、実習指導者とともに多角的な評価を行っていく必要があると考える。

保健師教育課程に関する開設時期については、概ね適切であったと回答しているが、実習科目の時期については、17%が「適切ではなかった」と回答していた。その理由として、実習を終え保健師として就業したいと希望しても、採用試験に間に合わないことなどであった。適切な職業選択を進め、専門的な学習への動機づけを高めるためにも、実習体験だけに頼らず、早期からのインターンシップの検討が必要であると考えられる。

保健師教育課程について、現行どおり学部必修を望む意見が58.2%である一方、選択制を望む意見も38.8%みられた。保健師教育で学ぶ、住民の暮らしや生活環境や、継続的なケア等の知識や技術は、これから地域包括ケア体制の中で活躍する看護職として不可欠な能力であると考えられる。一方で、保健師教育課程の選択制を導入したことにより、少人数で濃密な実習を行うことができ、学生の技術到達度評価が上昇しているという報告がある¹³⁾¹⁴⁾。今後は実習施設と協働し、実習の目標、内容、方法の検討を行い、到達度を継続的に測定していくことや、学内においても教育課程のあり方を検討していく必要がある。

3. 助産師教育課程に関する学生の評価と課題

助産師教育課程は学部教育においては過密なスケジュールとなることが指摘されており¹⁵⁾、本専攻においても4年次では保健師教育課程の科目である公衆衛生看護学実習、更に卒業研究と並行しながら、助産学演習、実習が集中して開講される。しかし、助産コー

スを選択していない学生に比べ過密なスケジュールにもかかわらず、開講時期、時間数を「非常に適切だった」「適切だった」と全員が回答している。その理由としては、毎学年ガイダンス時の説明、グループ学習や事例を用いた講義・演習、県内15か所の実習施設に1～2名の学生を配置した丁寧な実習指導など、充実した指導体制が影響していると考えられる。

助産実践能力に関する授業内容の評価は高く、新カリキュラムのもとで効果的な学習が行われていると考えられる。しかし、妊娠・分娩に関する内容に多くの時間を費やすため、「リプロダクティブ・ヘルス・ライツに関連する実践の中で研鑽する基本能力」は時間的余裕がないのが現状である。今後は、4年次で開講する助産学特論などで強化を進めることも検討する必要がある。

最後に学部選択制の科目履修については、全員が「学部選択制が良い」と回答している。本学は学部教育の中で看護の基礎教育として助産師教育を位置付けているが、学生側も看護の基礎教育の中で助産師課程を要望していることがわかった。他の都道府県では、大学専攻科や大学院での助産師教育が平成26年度では58校で行われ¹⁶⁾、学生の声からは学部教育の要望が高いが、本学の助産コースの卒業生の就職状況、就職後の達成レベル、地域の保健医療機関が求める助産師へのニーズなども考慮し、履修人数、学部教育とすべきか否かも含めて考えていく必要がある。

4. 本研究の限界

本研究は、学生の自己評価により評価を行っており、より詳細かつ正確な学習評価を行うためには、教員側からの評価など客観的な指標と合わせて評価を行っていく必要がある。また、単年度の調査であることから、今後もデータを蓄積し継続的な学習評価を行っていく必要がある。

V 結論

カリキュラム全体に対する学生の評価は高かったが、学士課程の限られた時間数の中で、看護実践能力を身に付けられる教育方法の検討と、カリキュラムの進度について検討の必要がある。

引用文献

- 1) 厚生労働省. 看護基礎教育の充実に関する検討会報告書. 2007. <http://www.mhlw.go.jp/shingi/2007/04/dl/s0420-13.pdf>
- 2) 坂井さゆり, 定方美恵子, 柳原清子, 他. 看護学専攻卒業生のカリキュラム評価に関する調査報告第1期～第4期生を対象に. 新潟大学医学部保健学科紀要. 2009;9(2):153-159.
- 3) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会報告書. 2011. <http://www.mhlw.go.jp/stf/houdou/2r9852000001310q-att/2r9852000001314m.pdf>
- 4) 新潟大学医学部保健学科 2012 学生便覧. 平成24年度発行平成24年4月. 保健学科事務室学務係.
- 5) 一般社団法人全国保健師教育機関協議会. 平成28年度定時総会・講演会資料集. 2016, 4.
- 6) 保健師助産師看護師学校養成所指定規則の一部を改正する省令案新旧対照条文http://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/kango/_icsFiles/afieldfile/2011/05/20/1305957_1.pdf
- 7) 三島三代子, 田原和美, 吉川洋子, 他. 看護学科学生によるカリキュラム総括評価. 島根県立大学短期大学部出雲キャンパス研究紀要. 2010 ; 4 :57-64.
- 8) 厚生労働省. 看護教育の内容と方法に関する検討会第一次報告－保健師に求められる実践能力と卒業時の到達目標と到達度. 2010.
- 9) 新道幸恵. 看護系大学の統合カリキュラムにおける助産師教育の到達目標に関する検討－第IV章 統合カリキュラムにおける助産師教育の卒業時到達目標. 平成20年度科学研究費補助金(基盤研究B)研究成果報告書. 2008, p112-119. <http://harp.lib.hiroshima-ac.jp/jrchcn/metadata/5352>
- 10) 坂井さゆり, 定方美恵子, 柳原清子, 他. 看護学専攻卒業生のカリキュラム評価に関する調査報告第1期～第4期生を対象に. 新潟大学医学部保健学科紀要. 2009;9(2):153-159.
- 11) 雀部蘭美, 眞鍋えみ子, 藤田淳子, 他. 看護学士課程卒業時における看護実践能力の経験到達状況. 京都府立医科大学看護学科紀要. 2009 ; 18 : 55-63.
- 12) 中越利佳, 森久美子, 田中祐子, 他. わが国の看護基礎教育における国際看護教育の現状と課題. 愛媛県立医療技術大学紀要. 2014 ; 11(1) : 9-13.
- 13) 鈴木良美, 齊藤恵美子, 澤井美奈子, 他. 保健師選択制導入前後における学生の技術到達度と実習体験に関する評価. 日本公衆衛生雑誌. 2016 ; 63(7):355-366.
- 14) 大宮朋子, 丸山美知子, 鈴木良美, 他. 保健師教育課程の選択制導入前後における「保健師教育の技術項目と卒業時の到達度」の学生自己評価の比較. 東邦看護学会誌. 2016;13: 23-30. 15) 山海千保子, 加納尚美, 梶原祥子, 他. 助産コース修了生からの教育評価. 茨城県立医療大学紀要. 2009 ; 14 : 155-162.
- 16) 全国国立大学法人助産師教育専任教員会議. 平成27年度(第61回)会議資料. 2015, 49.

Investigation of the Quality of Educational Program through Evaluation of Department of Nursing Curriculum — from a Survey of 4th Year Students after Revision of Curriculum —

Mieko SADAKATA, Taichi NARITA, Mayumi NISHIKATA, Michi KASHIWA
Tomoko SUMIYOSHI, Sayuri SAKAI, Utako SHIMIZU, Keiko KOBAYASHI

Department of Nursing, School of Health Sciences, Niigata University

Key words : nursing education, nursing students, curriculum, self-evaluation, questionnaire to be filled in by the participants

Abstract The purpose of this study is to have students evaluate the effects of the revised curriculum implemented from the 2012 academic year at the Department of Nursing at The School of Health Sciences, Niigata University. A questionnaire to be filled in by the participants was implemented targeting 80 4th year students and data from the 59 students (73.8%) who responded was analyzed. The questionnaire asked students to evaluate achievement of learning goals, curriculum and educational programmes start period and satisfaction with contents for public health nurses and midwives. Over 70% of participants responded that they ‘were able to achieve’ in almost categories of learning goals and over 70% responded that they ‘fulfilled’ in almost categories of achievement level for learning goals, giving a high evaluation of satisfaction levels in the curriculum level as a whole. In addition, over 80% of participants responded ‘was able to learn’ in all categories for learning in practical content for public health nurses and midwives. Meanwhile, evaluations for the development of nursing competency and knowledge, balance between general and specialized subjects and distribution of amount of study per semester in comparison with other categories. In order to operate an even better curriculum and enrich nursing education even further, it is necessary to investigate effective education methods and curriculum progress within a limited number of hours.

Accepted : 2017.2.17